

第28回（令和4年度第1回）
セーフコミュニティ 高齢者の安全対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和4年6月27日（月） 15：00～

場所：公社会館（メルクス） 2階会議室

1. 報告事項

（1）今後の主なスケジュールについて・・・・・・・・・・資料1

（2）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について
・・・・・・・・・・資料2 資料3

2. 協議事項

（1）2021（令和3）年度実績及び2022（令和4）年度方針（案）について・・資料4

（2）事前指導のプレゼン資料（案）について・・・・・・・・・・資料5

（3）広報啓発について・・・・・・・・・・資料6

3. その他

（1）合同対策委員会におけるワークシートに関する報告・・・・・・・・・・資料7

高齢者の安全対策委員会委員名簿

	団体等名称	委員名
1	久留米市民生委員児童委員協議会	近藤 嘉一郎
2	久留米市老人クラブ連合会	内田 重義
3	(社福)久留米市社会福祉協議会	漆原 数弥
4	(公社)福岡県作業療法協会	濱本 孝弘
5	(特非)久留米市介護福祉サービス事業者協議会	桑島 俊明
6	(特非)くるめ地域支援センター	上村 志保
7	(特非)にこにこ会	赤裏 盈子
8	久留米市校区まちづくり連絡協議会	高尾 忠男
9	久留米警察署(生活安全課長)	上村 功一
10	久留米市健康福祉部地域福祉課	藤原 誠二
11	久留米市健康福祉部介護保険課	藤木 達也
12	久留米市健康福祉部保健所健康推進課	柴尾 晴信
13	久留米市健康福祉部長寿支援課	野口 明仁

セーフコミュニティ年間スケジュール【令和4年度～令和5年度】

※セーフコミュニティ国際認証(再々認証)の取得を想定した場合のスケジュール

資料1

1. 報告事項

業 務		R4年度												R5年度											
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
SC推進組織						● 調整 ● 本部 ● 会議	● 本部 ● 会議 ①推進協議会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・プレゼン資料			年間活動 報告書 (本番) ②推進協議会 再々認証 事前指導					● 調整 ● 本部 ● 会議	● 本部 ● 会議 ①推進協議会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・プレゼン資料 ・申請書提出(7月)			(本番) ②推進協議会		● 協議会委員の改選	年間活動 報告書 再々認証式典・SCフェスタ			
対策委員会		対策 委員会 合同 委員会		5～6月中旬 ①対策委員会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・ワークショップ ・プレゼン資料案		7月下旬～8月 対策委員会 (正副委員長) ・事前指導に向けて ・プレゼン資料(最終)		● 委員の改選	● 本番直前 委員長リハ		(本番) ②対策委員会		③対策委員会 ・ワークショップ ・事前指導の講評 について		4月20日頃まで ①対策委員会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・ワークショップ ・プレゼン資料案			● 本番直前 委員長リハ	(本番) ②対策委員会	R5年度内に開催 ③対策委員会 ・現地審査の講評について					
外傷等 動向調査委員会			書面開催		①外傷委員会 ・各対策委員会の 状況報告 ・プレゼン資料(案)		①外傷委員会 (正副委員長) ・事前指導に向けて ・プレゼン資料(最終)		● 委員の改選		● 本番直前 委員長リハ	(本番) ②外傷委員会		③外傷委員会 ・事前指導の講評 について		4月20日頃まで ①外傷委員会 ・各対策委員会の 状況報告 ・プレゼン資料(案)			● 本番直前 委員長リハ	(本番) ②外傷委員会	R5年度内に開催 ③外傷委員会 ・現地審査の講評について				
申請書												(案) 申請書 申請書作成準備		12月～1月 申請書(案)作成		JISCと調整	3月 [各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間 2回目(最終)	4月末 日本語版 確定	5月 英訳	6月 申請書 提出				
プレゼン資料						対策委員会後 プレゼン資料 提出 ⇒JISCと調整①	JISCと 調整②(最終)	英訳	10月末 英訳版 完成				2～4月 現地指導に向けて プレゼン資料修正	JISCと調整	JISCとの調整期間(最終)	5月末 日本語版 確定	英訳	7月 日本語版・ 英訳版 完成							
広報	You tube				外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待 防止		学校安全		高齢者の 安全				
	広報 くるめ					外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待 防止		学校安全		高齢者の 安全			
	SC 通信				標語募集	外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待 防止		学校安全		高齢者の 安全			

久留米市
セーフコミュニティに関する実態調査
報告書



令和 3 年 10 月
久留米市

久留米市セーフコミュニティに関する実態調査報告書について

1. 久留米市セーフコミュニティに関する実態調査

(1) 調査の目的

ケガや事故の予防を目的とした市民、関係機関、団体との協働による「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。本調査は、本市のセーフコミュニティの取り組みの基礎資料として、市民の経験や考えなどを把握するため

(2) 調査の概要

- * 調査対象者・・・久留米市に在住する 15 歳以上の男女 2,500 人
- * 抽出方法・・・住民基本台帳から、層化二段無作為抽出
- * 調査方法・・・調査票を郵送し、郵送又はインターネットで回収を行う
- * 調査期間・・・令和 3 年 6 月 16 日～6 月 30 日
- * 回収数（率）・・・1,275 票（51.0%）
内、郵送 983 票、インターネット 292 票

(3) 調査テーマ

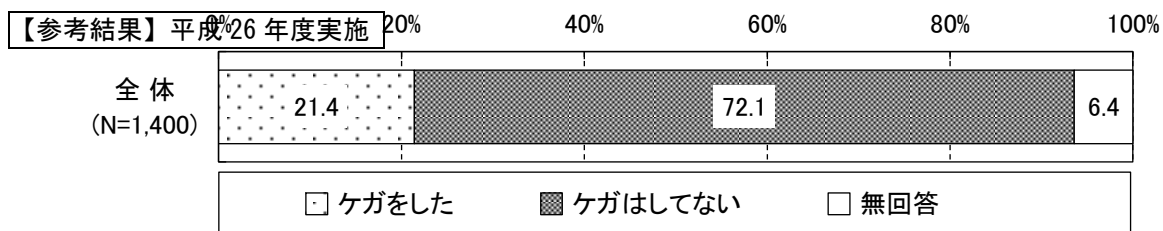
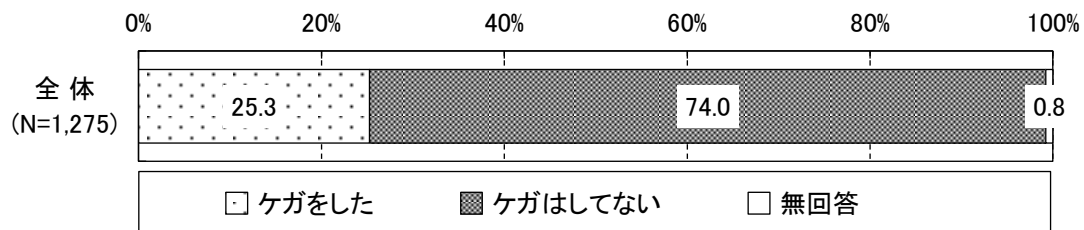
- ①「主なケガ」について
- ②「安全・安心の取り組み」について
- ③「交通安全」について
- ④「児童虐待防止」について
- ⑤「高齢者の安全」について
- ⑥「DV 防止」について
- ⑦「犯罪の防止・防犯力の向上」について
- ⑧「自殺予防」について
- ⑨「防災」について
- ⑩「その他」

(1) 過去1年間のケガの状況

問1. あなたは、過去1年間(令和2年4月以降)にケガをしましたか。(○はひとつ)(ケガとは、骨折、捻挫、打撲、切り傷などです。病院にかからないようなケガも対象とします。)

過去1年間で「ケガをした」人は3割弱

●ケガの状況について、「ケガはしてない」が74.0%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「ケガをした」の割合を性別・年代別でみると、男性・35～39歳、女性・30～39歳、女性・50～54歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「ケガをした」の割合をブロック別でみると、南西部が全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

			サ ン プ ル 数	ケ ガ を し た	ケ ガ は し て な い	無 回 答
全 体			1,275 100.0	322 25.3	943 74.0	10 0.8
性 別	男性		491 100.0	105 21.4	383 78.0	3 0.6
	女性		766 100.0	210 27.4	550 71.8	6 0.8
性 別 ・ 年 代 別	15～19歳	男性	21 100.0	5 23.8	16 76.2	0 0.0
		女性	27 100.0	7 25.9	20 74.1	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	4 22.2	14 77.8	0 0.0
		女性	24 100.0	10 41.7	14 58.3	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	6 35.3	11 64.7	0 0.0
		女性	28 100.0	8 28.6	20 71.4	0 0.0
	30～34歳	男性	19 100.0	2 10.5	17 89.5	0 0.0
		女性	38 100.0	14 36.8	23 60.5	1 2.6
	35～39歳	男性	33 100.0	10 30.3	23 69.7	0 0.0
		女性	59 100.0	24 40.7	35 59.3	0 0.0
	40～44歳	男性	32 100.0	9 28.1	23 71.9	0 0.0
		女性	71 100.0	18 25.4	53 74.6	0 0.0
	45～49歳	男性	43 100.0	7 16.3	36 83.7	0 0.0
		女性	61 100.0	14 23.0	47 77.0	0 0.0
	50～54歳	男性	40 100.0	9 22.5	31 77.5	0 0.0
		女性	50 100.0	20 40.0	29 58.0	1 2.0
	55～59歳	男性	35 100.0	8 22.9	27 77.1	0 0.0
		女性	63 100.0	17 27.0	46 73.0	0 0.0
	60～64歳	男性	56 100.0	11 19.6	43 76.8	2 3.6
		女性	65 100.0	11 16.9	53 81.5	1 1.5
	65～69歳	男性	46 100.0	8 17.4	38 82.6	0 0.0
		女性	75 100.0	22 29.3	53 70.7	0 0.0
	70～74歳	男性	61 100.0	9 14.8	52 85.2	0 0.0
		女性	87 100.0	16 18.4	71 81.6	0 0.0
	75～79歳	男性	29 100.0	5 17.2	23 79.3	1 3.4
		女性	53 100.0	8 15.1	43 81.1	2 3.8
	80歳以上	男性	36 100.0	9 25.0	27 75.0	0 0.0
		女性	62 100.0	18 29.0	43 69.4	1 1.6

◆表 ブロック別◆

		サンプル数	ケガをした	ケガはしていない	無回答
全 体		1,275 100.0	322 25.3	943 74.0	10 0.8
ブロック別	東部 A	91 100.0	26 28.6	65 71.4	0 0.0
	東部 B	80 100.0	17 21.3	61 76.3	2 2.5
	北部 A	113 100.0	24 21.2	89 78.8	0 0.0
	北部 B	72 100.0	20 27.8	52 72.2	0 0.0
	中央東部	140 100.0	38 27.1	100 71.4	2 1.4
	南東部	108 100.0	27 25.0	79 73.1	2 1.9
	中央部	177 100.0	36 20.3	140 79.1	1 0.6
	中央南部	205 100.0	57 27.8	146 71.2	2 1.0
	南西部	125 100.0	38 30.4	86 68.8	1 0.8
	西部 A	55 100.0	12 21.8	43 78.2	0 0.0
	西部 B	74 100.0	11 14.9	63 85.1	0 0.0

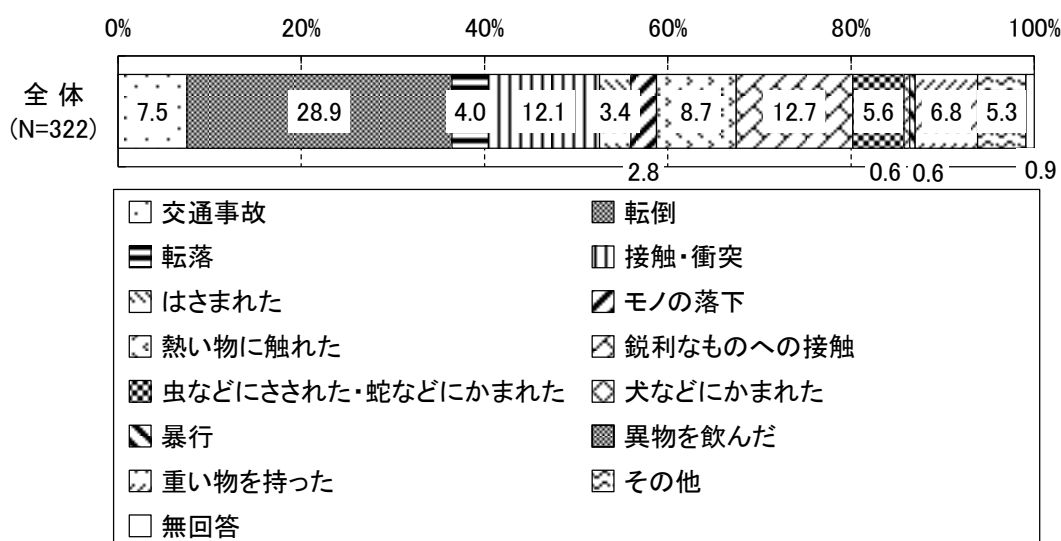
(2) ケガの原因

【問1で「ケガをした」と回答された方にお聞きします。】

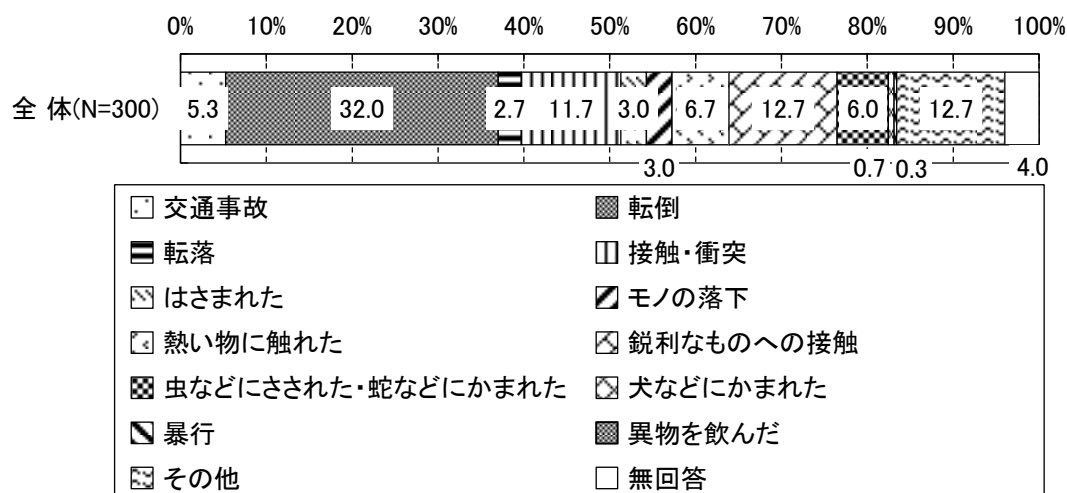
問1-1. ケガの原因は何でしたか。(〇はひとつ)

ケガの原因は、3割弱が「転倒」

- ケガの原因について、「転倒」が28.9%で最も高い。
- その他の内訳について、「運動中」などの意見がみられた。



【参考結果】平成26年度実施



【属性別特徴】

- 「転倒」の割合を性別・年代別でみると、男性・15～19歳、男性・65～69歳、男性・75歳以上、女性・65歳以上が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

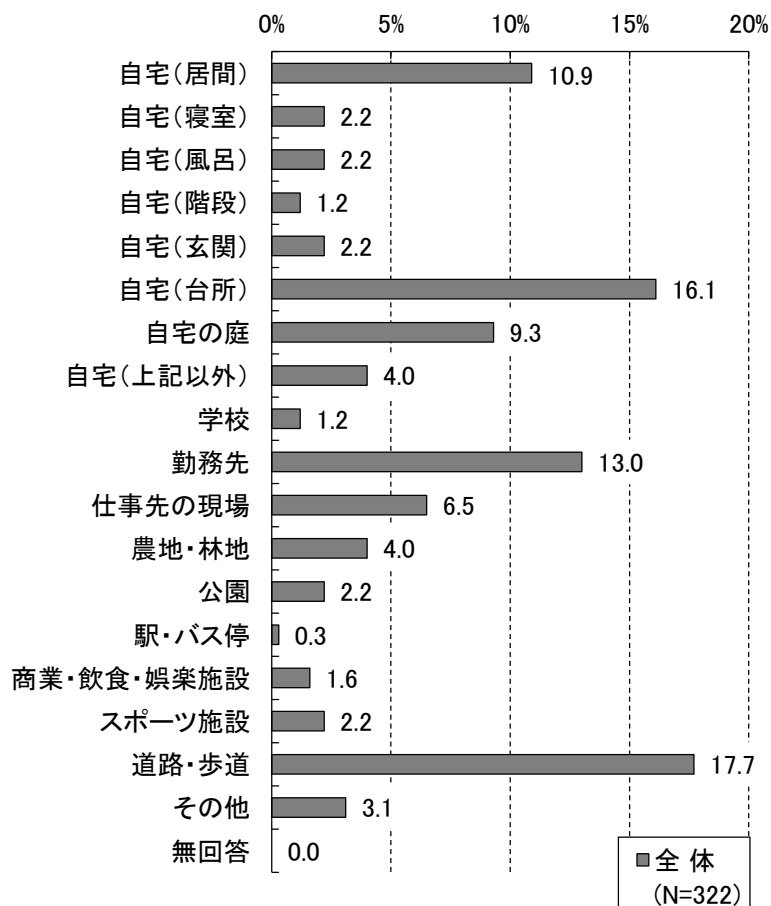
		サンプル数	交通事故	転倒	転落	接触・衝突	はさまれた	モノの落下	熱い物に触れた	鋭利なものへの接触	蛇などにかまれた・咬まれた	犬などにかまれた	暴行	異物を飲んだ	重い物を持った	その他	無回答
全 体		322 100.0	24 7.5	93 28.9	13 4.0	39 12.1	11 3.4	9 2.8	28 8.7	41 12.7	18 5.6	2 0.6	2 0.6	0 0.0	22 6.8	17 5.3	3 0.9
性別	男性	105 100.0	14 13.3	25 23.8	4 3.8	15 14.3	6 5.7	1 1.0	5 4.8	15 14.3	5 4.8	1 1.0	0 0.0	0 0.0	9 8.6	4 3.8	1 1.0
	女性	210 100.0	9 4.3	65 31.0	9 4.3	24 11.4	5 2.4	8 3.8	23 11.0	26 12.4	11 5.2	1 0.5	2 1.0	0 0.0	13 6.2	12 5.7	2 1.0
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
		女性	7 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	20～24歳	男性	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	10 100.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0
	25～29歳	男性	6 100.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
	30～34歳	男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
		女性	14 100.0	3 21.4	4 28.6	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	2 14.3	4 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	35～39歳	男性	10 100.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	24 100.0	0 0.0	8 33.3	1 4.2	4 16.7	0 0.0	1 4.2	3 12.5	2 8.3	1 4.2	0 0.0	0 0.0	1 4.2	3 12.5	0 0.0
	40～44歳	男性	9 100.0	0 0.0	3 33.3	1 11.1	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	1 11.1
		女性	18 100.0	1 5.6	3 16.7	1 5.6	0 0.0	1 5.6	6 33.3	2 11.1	3 16.7	0 0.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	45～49歳	男性	7 100.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	14 100.0	0 0.0	3 21.4	2 14.3	0 0.0	0 0.0	1 7.1	2 14.3	2 14.3	1 7.1	0 0.0	0 0.0	1 7.1	2 14.3	0 0.0
	50～54歳	男性	9 100.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0
		女性	20 100.0	2 10.0	3 15.0	0 0.0	4 20.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	5 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	2 10.0	0 0.0
	55～59歳	男性	8 100.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	2 25.0	0 0.0
		女性	17 100.0	0 0.0	5 29.4	0 0.0	6 35.3	0 0.0	1 5.9	3 17.6	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0
	60～64歳	男性	11 100.0	3 27.3	2 18.2	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	1 9.1	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0
		女性	11 100.0	0 0.0	2 18.2	0 0.0	2 18.2	1 9.1	0 0.0	2 18.2	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0
	65～69歳	男性	8 100.0	0 0.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	22 100.0	1 4.5	10 45.5	2 9.1	0 0.0	0 0.0	2 9.1	2 9.1	3 13.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	1 4.5
	70～74歳	男性	9 100.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0
		女性	16 100.0	0 0.0	9 56.3	1 6.3	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	2 12.5	0 0.0	0 0.0
	75～79歳	男性	5 100.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
		女性	8 100.0	0 0.0	5 62.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	80歳以上	男性	9 100.0	1 11.1	6 66.7	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0
		女性	18 100.0	1 5.6	10 55.6	1 5.6	2 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	2 11.1	0 0.0	1 5.6

(3) ケガをした場所

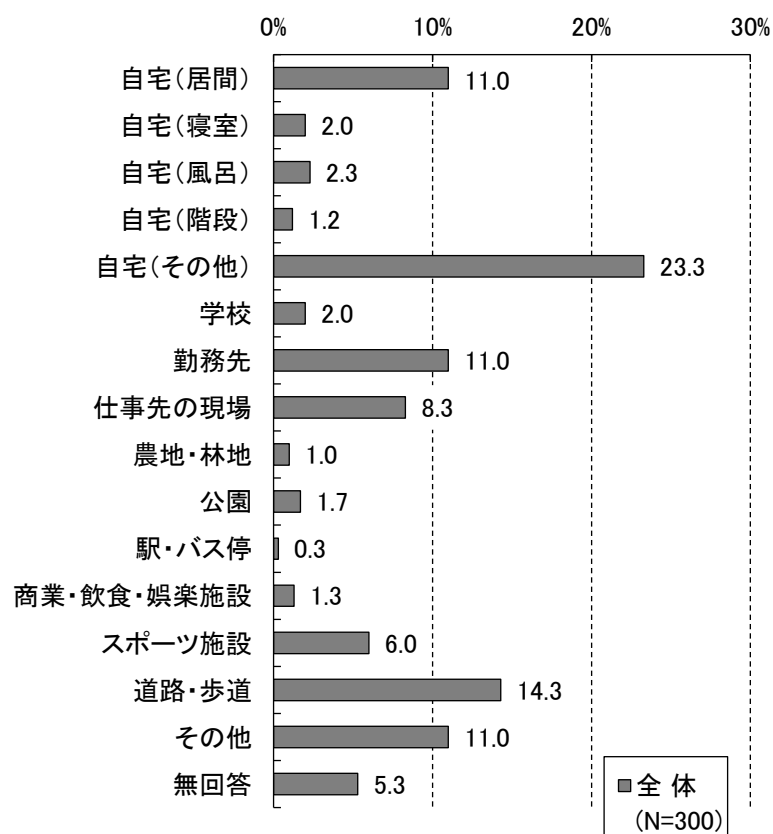
問 1-3. ケガをした場所はどこでしたか。(○はひとつ)

ケガをした場所は、「自宅」が 5 割弱、「道路・歩道」が 2 割弱

●ケガをした場所について、「道路・歩道」が 17.7%で最も高いが、「自宅」の様々な場所をあわせると「自宅」が 48.1%と 1 番高く、3 番目に「勤務先」が 13.0%と続く。



【参考結果】平成 26 年度実施



【属性別特徴】

- 男性では、「道路・歩道」の割合が最も高い。
- 女性では、「自宅（台所）」の割合が最も高い。
- 「道路・歩道」の割合を性別・年代別でみると、男性・20～24 歳、男性・35～39 歳、男性・45～49 歳、男性・55～64 歳、女性・70 歳以上が、全体の割合に比べて高い。
- 「自宅（台所）」の割合を性別・年代別でみると、男性・45～49 歳、男性・80 歳以上、女性・30～34 歳、女性・45～49 歳、女性・55～69 歳が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	自宅 (居間)	自宅 (寝室)	自宅 (風呂)	自宅 (階段)	自宅 (玄関)	自宅 (台所)	自宅の庭	(1 ～ 7 以外)	学校	勤務先
全 体		322 100.0	35 10.9	7 2.2	7 2.2	4 1.2	7 2.2	52 16.1	30 9.3	13 4.0	4 1.2	42 13.0
性別	男性	105 100.0	7 6.7	2 1.9	3 2.9	0 0.0	0 0.0	10 9.5	10 9.5	6 5.7	1 1.0	15 14.3
	女性	210 100.0	26 12.4	5 2.4	4 1.9	4 1.9	6 2.9	42 20.0	19 9.0	7 3.3	3 1.4	26 12.4
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
		女性	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 42.9	1 14.3
	20～24歳	男性	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
		女性	10 100.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0
	25～29歳	男性	6 100.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 50.0
		女性	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0
	30～34歳	男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
		女性	14 100.0	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 35.7	1 7.1	0 0.0	0 0.0	1 7.1
	35～39歳	男性	10 100.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0
		女性	24 100.0	3 12.5	0 0.0	0 0.0	1 4.2	1 4.2	5 20.8	3 12.5	0 0.0	1 4.2
	40～44歳	男性	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3
		女性	18 100.0	4 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	3 16.7	2 11.1	0 0.0	4 22.2
	45～49歳	男性	7 100.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3
		女性	14 100.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0	6 42.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0	1 7.1
	50～54歳	男性	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	3 33.3	2 22.2	0 0.0	1 11.1
		女性	20 100.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	4 20.0	2 10.0	0 0.0	6 30.0
	55～59歳	男性	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5
		女性	17 100.0	3 17.6	1 5.9	0 0.0	0 0.0	4 23.5	1 5.9	1 5.9	0 0.0	2 11.8
	60～64歳	男性	11 100.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0
		女性	11 100.0	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	3 27.3	1 9.1	1 9.1	0 0.0	2 18.2
	65～69歳	男性	8 100.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 12.5	1 12.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5
		女性	22 100.0	2 9.1	0 0.0	0 0.0	1 4.5	6 27.3	3 13.6	0 0.0	0 0.0	1 4.5
	70～74歳	男性	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0
		女性	16 100.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	2 12.5	3 18.8	1 6.3	1 6.3
	75～79歳	男性	5 100.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	80歳以上	男性	9 100.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0
		女性	18 100.0	3 16.7	1 5.6	0 0.0	1 5.6	1 5.6	3 16.7	2 11.1	2 11.1	0 0.0

		サンプル数	仕事先の現場	農地・林地	公園	駅・バス停	・商業・娯楽・施設	スポーツ施設	道路・歩道	その他	無回答
全 体		322 100.0	21 6.5	13 4.0	7 2.2	1 0.3	5 1.6	7 2.2	57 17.7	10 3.1	0 0.0
性別	男性	105 100.0	10 9.5	10 9.5	2 1.9	1 1.0	0 0.0	4 3.8	20 19.0	4 3.8	0 0.0
	女性	210 100.0	10 4.8	3 1.4	5 2.4	0 0.0	5 2.4	3 1.4	36 17.1	6 2.9	0 0.0
性別・年代別	15～19歳	男性	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
		女性	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0
	20～24歳	男性	4 100.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
		女性	10 100.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0
	25～29歳	男性	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	1 12.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～34歳	男性	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	14 100.0	1 7.1	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	3 21.4	0 0.0	0 0.0
	35～39歳	男性	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0
		女性	24 100.0	3 12.5	0 0.0	0 0.0	1 4.2	1 4.2	3 12.5	2 8.3	0 0.0
	40～44歳	男性	9 100.0	2 22.2	3 33.3	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	1 5.6	0 0.0
	45～49歳	男性	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0
		女性	14 100.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	3 21.4	0 0.0	0 0.0
	50～54歳	男性	9 100.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0
		女性	20 100.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0
	55～59歳	男性	8 100.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0
		女性	17 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	3 17.6	1 5.9	0 0.0
	60～64歳	男性	11 100.0	0 0.0	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 27.3	0 0.0	0 0.0
		女性	11 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0
	65～69歳	男性	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
		女性	22 100.0	1 4.5	1 4.5	0 0.0	2 9.1	1 4.5	4 18.2	0 0.0	0 0.0
	70～74歳	男性	9 100.0	3 33.3	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	16 100.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 25.0	1 6.3	0 0.0
	75～79歳	男性	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		女性	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	0 0.0	0 0.0
	80歳以上	男性	9 100.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0
		女性	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 27.8	0 0.0	0 0.0

【設問間別特徴】

- 「道路・歩道」の割合を住居形態別でみると、持ち家（集合住宅・分譲マンション）、賃貸住宅（アパート、マンション）が、全体の割合に比べて高い。

◆表 住居形態別◆

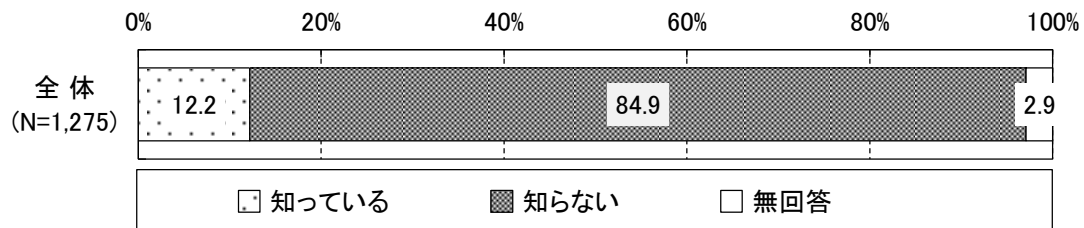
[illegible]

(4) 久留米市作成「転倒予防パンフレット」の認知状況

問 9. 久留米市では、高齢者の転倒予防に取り組んでいます。あなたは、久留米市で作成した「転倒予防パンフレット」を知っていますか。(○はひとつ)

転倒予防パンフレットを「知らない」人は8割強

●久留米市作成「転倒予防パンフレット」の認知状況について、「知らない」が84.9%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「知っている」の割合を性別・年代別でみると、男性・80歳以上、女性・70歳以上が、全体の割合に比べて高い。
- 「知らない」の割合を自治会の加入状況別でみると、自治会に加入していない人が、全体の割合に比べて高い。
- 「知っている」の割合をブロック別でみると、中央南部、南西部が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

			サ ン プ ル 数	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全 体			1,275 100.0	155 12.2	1,083 84.9	37 2.9
性 別	男性		491 100.0	53 10.8	428 87.2	10 2.0
	女性		766 100.0	100 13.1	640 83.6	26 3.4
性 別 ・ 年 代 別	15～19歳	男性	21 100.0	1 4.8	20 95.2	0 0.0
		女性	27 100.0	2 7.4	25 92.6	0 0.0
	20～24歳	男性	18 100.0	0 0.0	18 100.0	0 0.0
		女性	24 100.0	1 4.2	23 95.8	0 0.0
	25～29歳	男性	17 100.0	2 11.8	15 88.2	0 0.0
		女性	28 100.0	3 10.7	25 89.3	0 0.0
	30～34歳	男性	19 100.0	0 0.0	18 94.7	1 5.3
		女性	38 100.0	2 5.3	36 94.7	0 0.0
	35～39歳	男性	33 100.0	0 0.0	33 100.0	0 0.0
		女性	59 100.0	3 5.1	56 94.9	0 0.0
	40～44歳	男性	32 100.0	1 3.1	31 96.9	0 0.0
		女性	71 100.0	6 8.5	64 90.1	1 1.4
	45～49歳	男性	43 100.0	3 7.0	38 88.4	2 4.7
		女性	61 100.0	9 14.8	52 85.2	0 0.0
	50～54歳	男性	40 100.0	3 7.5	36 90.0	1 2.5
		女性	50 100.0	4 8.0	46 92.0	0 0.0
	55～59歳	男性	35 100.0	3 8.6	32 91.4	0 0.0
		女性	63 100.0	5 7.9	57 90.5	1 1.6
	60～64歳	男性	56 100.0	6 10.7	48 85.7	2 3.6
		女性	65 100.0	7 10.8	58 89.2	0 0.0
	65～69歳	男性	46 100.0	3 6.5	43 93.5	0 0.0
		女性	75 100.0	10 13.3	62 82.7	3 4.0
	70～74歳	男性	61 100.0	9 14.8	48 78.7	4 6.6
		女性	87 100.0	19 21.8	64 73.6	4 4.6
	75～79歳	男性	29 100.0	10 34.5	19 65.5	0 0.0
		女性	53 100.0	10 18.9	37 69.8	6 11.3
	80歳以上	男性	36 100.0	11 30.6	25 69.4	0 0.0
		女性	62 100.0	19 30.6	32 51.6	11 17.7

◆表 自治会の加入状況別◆

		サ ン プ ル 数	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全 体		1,275 100.0	155 12.2	1,083 84.9	37 2.9
状 の 自 治 会 別 加 入 会	加入している	1,033 100.0	144 13.9	858 83.1	31 3.0
	加入していない	130 100.0	7 5.4	119 91.5	4 3.1

◆表 ブロック別◆

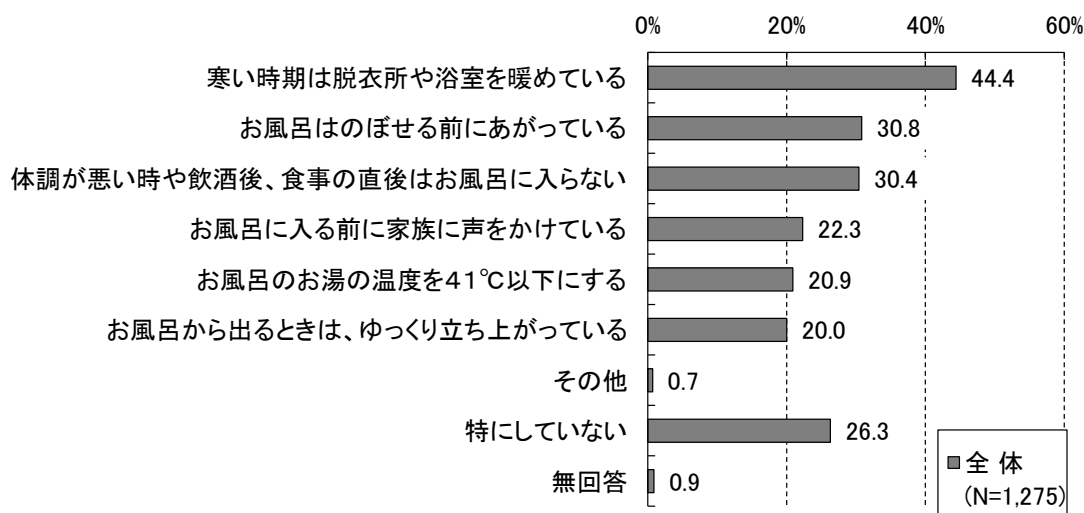
		サ ン プ ル 数	知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全 体		1,275 100.0	155 12.2	1,083 84.9	37 2.9
ブ ロ ッ ク 別	東部 A	91 100.0	13 14.3	75 82.4	3 3.3
	東部 B	80 100.0	6 7.5	67 83.8	7 8.8
	北部 A	113 100.0	13 11.5	99 87.6	1 0.9
	北部 B	72 100.0	5 6.9	66 91.7	1 1.4
	中央東部	140 100.0	14 10.0	123 87.9	3 2.1
	南東部	108 100.0	13 12.0	92 85.2	3 2.8
	中央部	177 100.0	15 8.5	157 88.7	5 2.8
	中央南部	205 100.0	36 17.6	162 79.0	7 3.4
	南西部	125 100.0	22 17.6	100 80.0	3 2.4
	西部 A	55 100.0	8 14.5	45 81.8	2 3.6
	西部 B	74 100.0	8 10.8	65 87.8	1 1.4

(5) 「ヒートショック」の対策で実践していること

問 10. 久留米市では、寒い時期に脱衣所から熱い湯船に入ることによって脳出血や脳梗塞、心筋梗塞等を起こしてしまう「ヒートショック」の予防啓発に取り組んでいます。あなたは、寒い時期に「ヒートショック」の対策をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

何らかのヒートショック対策を実施している人は7割強

- 「ヒートショック」の対策で実践していることについて、「寒い時期は脱衣所や浴室を暖めている」が44.4%で最も高く、「お風呂はのぼせる前にあがっている」が30.8%と続く。



【属性別特徴】

- 「寒い時期は脱衣所や浴室を暖めている」の割合を性別・年代別でみると、男性・70～74歳、男性・80歳以上、女性・40～49歳、女性・55～74歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「お風呂はのぼせる前にあがっている」の割合を性別・年代別でみると、男性・60～64歳、女性・30～34歳、女性・40～44歳、女性・50～59歳、女性・75歳以上が、全体の割合に比べて高い。
- 「寒い時期は脱衣所や浴室を暖めている」の割合をブロック別でみると、北部Aが全体の割合に比べて高い。
- 「お風呂はのぼせる前にあがっている」の割合をブロック別でみると、北部A、中央東部が全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	暖かい時期は脱衣所や浴室を	寒い時期は脱衣所や浴室を	てお風呂はのぼせる前にあがつ	の体調は悪い時や飲酒後、食事	お風呂に入っている前に家族に	お風呂に入る前に家族に	以下にするお風呂の温度を41℃	お風呂立ちから出るときは、ゆっ	その他	特にしていない	無回答
全 体		1,275 100.0	566 44.4	393 30.8	387 30.4	284 22.3	266 20.9	255 20.0	9 0.7	335 26.3	11 0.9		
性別	男性	491 100.0	187 38.1	133 27.1	125 25.5	91 18.5	93 18.9	88 17.9	4 0.8	173 35.2	3 0.6		
	女性	766 100.0	371 48.4	252 32.9	255 33.3	187 24.4	170 22.2	162 21.1	5 0.7	159 20.8	7 0.9		
性別・年代別	15～19歳	男性	21 100.0	6 28.6	5 23.8	0 0.0	5 23.8	1 4.8	1 4.8	0 0.0	9 42.9	0 0.0	
		女性	27 100.0	8 29.6	4 14.8	2 7.4	5 18.5	4 14.8	1 3.7	10 37.0	0 0.0		
	20～24歳	男性	18 100.0	5 27.8	4 22.2	6 33.3	1 5.6	3 16.7	0 0.0	8 44.4	0 0.0		
		女性	24 100.0	6 25.0	10 41.7	8 33.3	5 20.8	0 0.0	4 16.7	7 29.2	0 0.0		
	25～29歳	男性	17 100.0	5 29.4	3 17.6	1 5.9	3 17.6	2 11.8	4 23.5	6 35.3	0 0.0		
		女性	28 100.0	13 46.4	5 17.9	6 21.4	5 17.9	6 21.4	4 14.3	10 35.7	0 0.0		
	30～34歳	男性	19 100.0	6 31.6	4 21.1	5 26.3	3 15.8	3 15.8	6 31.6	1 5.3	11 57.9	0 0.0	
		女性	38 100.0	18 47.4	15 39.5	9 23.7	11 28.9	7 18.4	7 18.4	0 26.3	10 0.0		
	35～39歳	男性	33 100.0	11 33.3	6 18.2	4 12.1	3 9.1	5 15.2	1 3.0	16 48.5	0 0.0		
		女性	59 100.0	23 39.0	16 27.1	14 23.7	14 23.7	10 16.9	5 8.5	21 35.6	0 0.0		
	40～44歳	男性	32 100.0	13 40.6	8 25.0	6 18.8	5 15.6	3 9.4	1 3.1	12 37.5	0 0.0		
		女性	71 100.0	38 53.5	26 36.6	20 28.2	14 19.7	15 21.1	6 8.5	16 22.5	0 0.0		
	45～49歳	男性	43 100.0	10 23.3	10 23.3	8 18.6	7 16.3	4 9.3	6 14.0	22 51.2	0 0.0		
		女性	61 100.0	33 54.1	13 21.3	17 27.9	12 19.7	3 4.9	10 16.4	12 19.7	0 0.0		
	50～54歳	男性	40 100.0	14 35.0	6 15.0	7 17.5	6 15.0	5 12.5	5 12.5	17 42.5	1 2.5		
		女性	50 100.0	23 46.0	18 36.0	17 34.0	15 30.0	6 12.0	9 18.0	12 24.0	0 0.0		
	55～59歳	男性	35 100.0	9 25.7	6 17.1	7 20.0	3 8.6	4 11.4	4 11.4	18 51.4	0 0.0		
		女性	63 100.0	36 57.1	24 38.1	17 27.0	11 17.5	12 19.0	11 17.5	11 17.5	0 0.0		
	60～64歳	男性	56 100.0	26 46.4	21 37.5	20 35.7	7 12.5	7 12.5	10 17.9	15 26.8	0 0.0		
		女性	65 100.0	35 53.8	20 30.8	27 41.5	12 18.5	16 24.6	14 21.5	11 16.9	0 0.0		
	65～69歳	男性	46 100.0	17 37.0	11 23.9	10 21.7	7 15.2	15 32.6	6 13.0	16 34.8	0 0.0		
		女性	75 100.0	40 53.3	23 30.7	32 42.7	20 26.7	17 22.7	19 25.3	10 13.3	1 1.3		
	70～74歳	男性	61 100.0	31 50.8	19 31.1	13 21.3	14 23.0	14 23.0	14 23.0	14 23.0	2 3.3		
		女性	87 100.0	43 49.4	31 35.6	37 42.5	20 23.0	28 32.2	29 33.3	13 14.9	3 3.4		
	75～79歳	男性	29 100.0	9 31.0	17 58.6	14 48.3	15 51.7	9 31.0	12 41.4	3 10.3	0 0.0		
		女性	53 100.0	24 45.3	21 39.6	25 47.2	20 37.7	22 41.5	18 34.0	7 13.2	2 3.8		
	80歳以上	男性	36 100.0	22 61.1	12 33.3	22 61.1	11 30.6	15 41.7	16 44.4	6 16.7	0 0.0		
		女性	62 100.0	30 48.4	23 37.1	23 37.1	22 35.5	24 38.7	25 40.3	9 14.5	1 1.6		

◆表 ブロック別◆

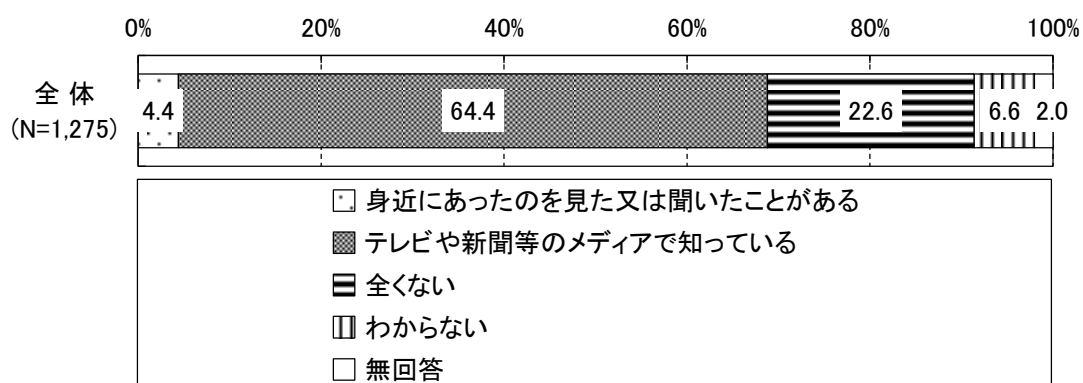
	サ ン プ ル 数	暖 め て い る 時 期 は 脱 衣 所 や 浴 室 を	寒 い 時 期 は の ぼ せ る 前 に あ が つ て い る	お 風 呂 は の ぼ せ る 前 に あ が つ て い る	体 直 調 が 悪 い 時 や 飲 酒 後 、 食 事	お 風 呂 に 入 る 前 に 家 族 に 声 を か け て い る	お 風 呂 に 入 る 前 に 家 族 に 声 を か け て い る	お 風 呂 の お 湯 の 温 度 を 4 1 ℃ 以 下 に す る	お 風 呂 か ら 出 る と き は 、 ゆ っ く り 立 ち 上 が つ て い る	そ の 他	特 に し て い な い	無 回 答
全 体	1,275 100.0	566 44.4	393 30.8	387 30.4	284 22.3	266 20.9	255 20.0	9 0.7	335 26.3	11 0.9		
ブ ロ ッ ク 別	東部A	91 100.0	44 48.4	30 33.0	33 36.3	21 23.1	13 14.3	22 24.2	1 1.1	20 22.0	0 0.0	
	東部B	80 100.0	37 46.3	22 27.5	23 28.8	21 26.3	21 26.3	14 17.5	0 0.0	25 31.3	1 1.3	
	北部A	113 100.0	56 49.6	48 42.5	41 36.3	24 21.2	31 27.4	22 19.5	1 0.9	27 23.9	0 0.0	
	北部B	72 100.0	27 37.5	20 27.8	19 26.4	13 18.1	11 15.3	14 19.4	0 0.0	16 22.2	1 1.4	
	中央東部	140 100.0	62 44.3	52 37.1	40 28.6	32 22.9	36 25.7	31 22.1	0 0.0	32 22.9	1 0.7	
	南東部	108 100.0	50 46.3	32 29.6	41 38.0	31 28.7	17 15.7	30 27.8	1 0.9	23 21.3	0 0.0	
	中央部	177 100.0	73 41.2	52 29.4	59 33.3	36 20.3	33 18.6	39 22.0	2 1.1	51 28.8	1 0.6	
	中央南部	205 100.0	86 42.0	51 24.9	63 30.7	39 19.0	39 19.0	29 14.1	2 1.0	59 28.8	2 1.0	
	南西部	125 100.0	56 44.8	36 28.8	29 23.2	26 20.8	28 22.4	25 20.0	0 0.0	34 27.2	3 2.4	
	西部A	55 100.0	27 49.1	18 32.7	13 23.6	10 18.2	13 23.6	8 14.5	2 3.6	16 29.1	0 0.0	
	西部B	74 100.0	34 45.9	20 27.0	15 20.3	20 27.0	17 23.0	13 17.6	0 0.0	23 31.1	0 0.0	

(6) 高齢者虐待を見聞きした経験

問 11. 下の表のような行為が高齢者虐待にあたります。あなたは、これまで高齢者虐待を見たり聞いたりしたことがありますか。(○はひとつ)

高齢者の虐待について、7 割弱の人は「見聞きしたことがある」

- 高齢者の虐待を見聞きした経験について、「テレビや新聞等のメディアで知っている」が 64.4% で最も高い。



【属性別特徴】

- 「テレビや新聞等のメディアで知っている」の割合を性別・年代別でみると、男性・45～54 歳、男性・65～69 歳、女性・30～34 歳、女性・45～49 歳、女性・55～64 歳が、全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		サ ン プ ル 数	聞 身 近 に あ つ た の を 見 た 又 は	で テ レ ビ や 新 聞 等 の メ デ ィ ア	全 く な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,275 100.0	56 4.4	821 64.4	288 22.6	84 6.6	26 2.0
性 別	男性	491 100.0	21 4.3	301 61.3	126 25.7	35 7.1	8 1.6
	女性	766 100.0	35 4.6	508 66.3	159 20.8	46 6.0	18 2.3
性 別 ・ 年 代 別	15～19歳	男性	21 100.0	0 0.0	16 76.2	5 23.8	0 0.0
		女性	27 100.0	0 0.0	17 63.0	6 22.2	4 14.8
	20～24歳	男性	18 100.0	0 0.0	10 55.6	8 44.4	0 0.0
		女性	24 100.0	0 0.0	16 66.7	6 25.0	2 8.3
	25～29歳	男性	17 100.0	2 11.8	9 52.9	5 29.4	1 5.9
		女性	28 100.0	0 0.0	20 71.4	7 25.0	1 3.6
	30～34歳	男性	19 100.0	2 10.5	12 63.2	3 15.8	2 10.5
		女性	38 100.0	4 10.5	28 73.7	4 10.5	2 5.3
	35～39歳	男性	33 100.0	1 3.0	13 39.4	13 39.4	6 18.2
		女性	59 100.0	1 1.7	40 67.8	14 23.7	4 6.8
	40～44歳	男性	32 100.0	2 6.3	18 56.3	10 31.3	2 6.3
		女性	71 100.0	6 8.5	40 56.3	21 29.6	4 5.6
	45～49歳	男性	43 100.0	0 0.0	32 74.4	10 23.3	1 2.3
		女性	61 100.0	7 11.5	47 77.0	6 9.8	1 1.6
	50～54歳	男性	40 100.0	0 0.0	30 75.0	8 20.0	1 2.5
		女性	50 100.0	3 6.0	34 68.0	11 22.0	2 4.0
	55～59歳	男性	35 100.0	5 14.3	19 54.3	8 22.9	3 8.6
		女性	63 100.0	3 4.8	49 77.8	8 12.7	3 4.8
	60～64歳	男性	56 100.0	2 3.6	35 62.5	16 28.6	2 3.6
		女性	65 100.0	2 3.1	49 75.4	13 20.0	1 1.5
	65～69歳	男性	46 100.0	1 2.2	33 71.7	8 17.4	3 6.5
		女性	75 100.0	4 5.3	48 64.0	16 21.3	5 6.7
	70～74歳	男性	61 100.0	2 3.3	38 62.3	15 24.6	3 4.9
		女性	87 100.0	4 4.6	49 56.3	21 24.1	8 9.2
	75～79歳	男性	29 100.0	0 0.0	16 55.2	9 31.0	3 10.3
		女性	53 100.0	0 0.0	32 60.4	13 24.5	4 7.5
	80歳以上	男性	36 100.0	4 11.1	17 47.2	6 16.7	8 22.2
		女性	62 100.0	1 1.6	36 58.1	13 21.0	5 8.1

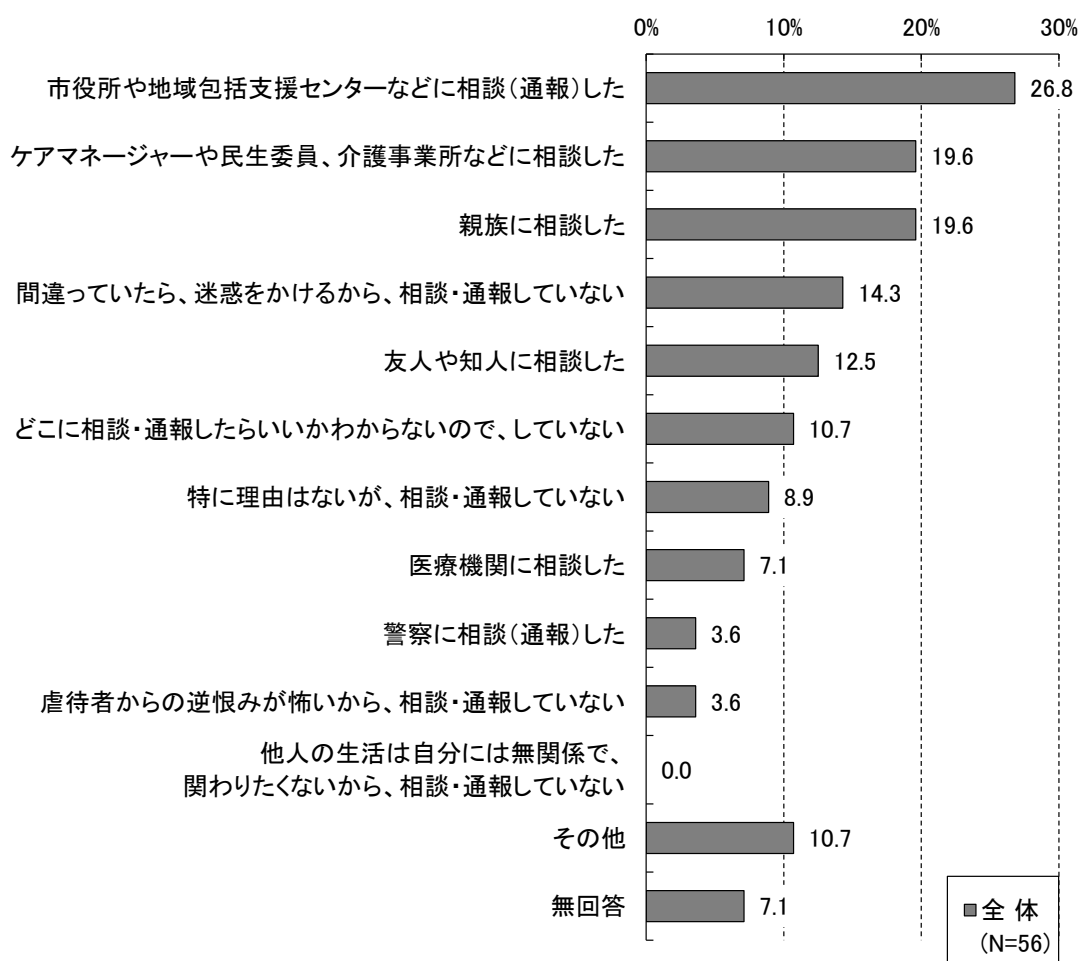
(7) 高齢者の虐待を見聞きしたときの対応（相談または通報）

【問 11 で「1」と回答された方にお聞きします。】

問 11-1. あなたは、高齢者虐待を身近で見たり聞いたりしたとき、相談又は通報しましたか。（あてはまるものすべてに○）

高齢者虐待を見聞きしたとき、相談または通報した人は6割弱

- 高齢者虐待を見聞きしたときの対応（相談または通報）について、「市役所や地域包括支援センターなどに相談（通報）した」が26.8%で最も高い。
- その他の内訳について、「上司に相談」や「職場で共有」などの意見がみられた。



◆表 性別◆

		サ ン プ ル 数	相 談 ・ 通 報 し た	市 役 所 や 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー な ど に 相 談 （ 通 報 ） し た	ケ ア マ ネ ー ジ ャ ー や 民 生 委 員、 介 護 事 業 所 な ど に 相 談 し た	親 族 に 相 談 し た	友 人 や 知 人 に 相 談 し た	医 療 機 関 に 相 談 し た	警 察 に 相 談 （ 通 報 ） し た	相 談 ・ 通 報 し て い な い	間 違 っ て い たら、 迷 惑 を か け る から、 相 談 ・ 通 報 し て い な い	ど こ に 相 談 ・ 通 報 し た ら い い か わ か ら な い の で、 し て い な い か	特 に 理 由 は な い が、 相 談 ・ 通 報 し て い な い	虐 待 者 か ら の 逆 恨 み が 怖 い か ら、 相 談 ・ 通 報 し て い な い	他 人 の 生 活 は 自 分 に は 無 関 係 で、 関 わ り た く な い から、 相 談 ・ 通 報 し て い な い	そ の 他	無 回 答
全 体		56 100.0	33 58.9	15 26.8	11 19.6	11 19.6	7 12.5	4 7.1	2 3.6	18 32.1	8 14.3	6 10.7	5 8.9	2 3.6	0 0.0	6 10.7	4 7.1
性 別	男性	21 100.0	14 66.7	6 28.6	3 14.3	6 28.6	3 14.3	0 0.0	0 0.0	6 28.6	2 9.5	1 4.8	3 14.3	1 4.8	0 0.0	1 4.8	2 9.5
	女性	35 100.0	19 54.3	9 25.7	8 22.9	5 14.3	4 11.4	4 11.4	2 5.7	12 34.3	6 17.1	5 14.3	2 5.7	1 2.9	0 0.0	5 14.3	2 5.7

第 44 回 (令和 3 年度)

久留米市民意識調査 報告書

令和 4 年 3 月

久 留 米 市

I 調査の概要

1 調査の目的

変化する市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズを科学的、統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データとして活用することを目的としている。

2 調査の方法

(1) 調査地域	久留米市全域
(2) 調査対象者	久留米市に在住する満 18 歳以上の人
(3) サンプル数	5,000 人
(4) 抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
(5) 調査方法	郵送調査
(6) 調査期間	令和 3 年 7 月 27 日から令和 3 年 8 月 16 日
(7) 回収数 (%)	2,194 票 (43.9%)
(8) 調査の企画と実施	企画 久留米市協働推進部広聴・相談課 実施 株式会社名豊

3 調査項目

今回の調査は、1. 行政施策、2. 情報発信、3. 地域コミュニティ活動、4. セーフコミュニティ、5. 在宅医療・介護の意識、6. 新型コロナウイルス感染症の影響という 6 つのテーマについて実施した。

- 1. 行政施策** 久留米市の住みやすさ、愛着度、定住意向、市の情報発信などについて調査し、久留米市新総合計画に掲げる施策の達成状況を把握するための基礎資料として活用とする。
- 2. 情報発信** 広報紙やホームページの閲覧頻度、SNS の利用状況などについて調査し、久留米市の効果的な情報発信方法を検討するための基礎資料として活用する。
- 3. 地域コミュニティ活動** 自治会への加入状況、地域コミュニティ活動の認知度と参加意向、地域コミュニティへ期待することを調査し、地域コミュニティの活性化を図るための基礎資料として活用する。
- 4. セーフコミュニティ** 久留米市が取り組んでいるセーフコミュニティについての認知度、暮らしでの不安感、防災・防犯への取り組み、不安・悩みの状況を把握し、安全安心なまちづくりを実現するための基礎資料とする。
- 5. 在宅医療・介護の意識** ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の認知度、人生の最終段階の希望、看取りの状況について把握し、在宅医療・介護の連携の為の施策策定の基礎資料とする。
- 6. 新型コロナウイルス感染症の影響** 新型コロナウイルス感染症が流行する中での生活の変化、生活での困り事などを把握する。

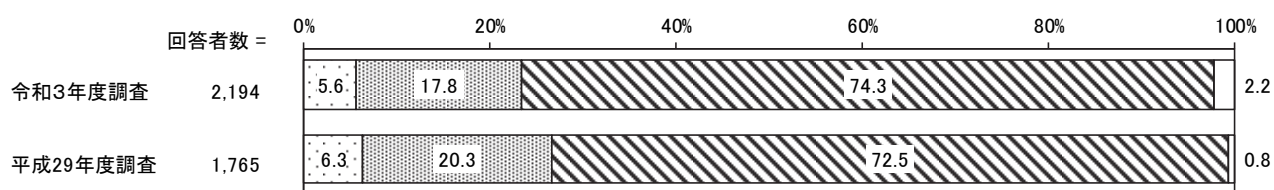
(7) 安全安心のまちづくり「セーフコミュニティ」について

問 28 あなたは、久留米市が、セーフコミュニティ国際認証を取得して「安全安心のまちづくり」に取り組んでいることを知っていますか。
(あてはまる番号 1 つだけ)

「知らない」の割合が 74.3%と最も高く、次いで「聞いたことがある」の割合が 17.8%となっています。

【経年比較】

大きな差異はみられません。



□ 取り組んでいることを知っている ■ 聞いたことがある ▨ 知らない □ 無回答

【性別】

大きな差異はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	取り組んでいる ことを知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
全体	2,194	5.6	17.8	74.3	2.2
男性	939	6.6	17.9	73.8	1.7
女性	1,239	4.9	17.8	74.8	2.4

【年齢別】

年齢が高くなるにつれて「聞いたことがある」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	回答者数 (件)	取り組んでいる ことを知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
全体	2,194	5.6	17.8	74.3	2.2
18～29 歳	171	4.7	10.5	83.6	1.2
30 歳代	253	7.1	11.1	81.4	0.4
40 歳代	368	4.3	12.2	81.3	2.2
50 歳代	382	3.7	14.7	80.4	1.3
60～64 歳	235	6.0	22.6	69.8	1.7
65～69 歳	284	5.6	22.2	70.4	1.8
70～74 歳	293	7.5	25.9	62.1	4.4
75 歳以上	197	7.6	25.4	61.9	5.1

【自治会加入状況別】

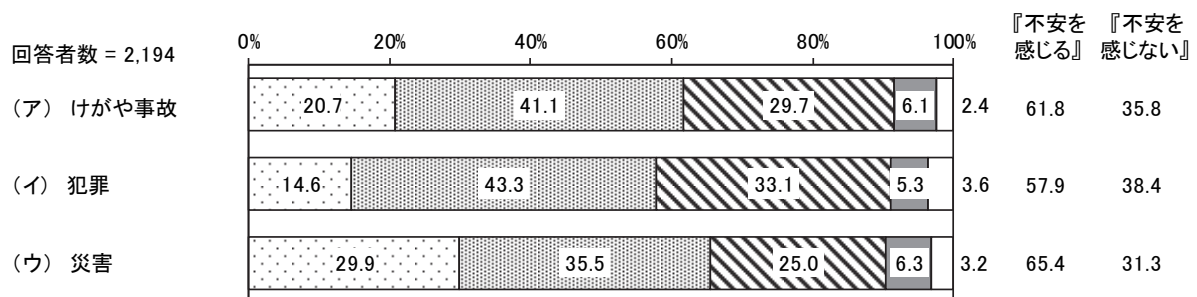
「加入している」で「聞いたことがある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	取り組んでいる ことを知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
全体	2,194	5.6	17.8	74.3	2.2
加入している	1,629	6.6	19.8	71.9	1.8
加入していない	360	3.6	12.5	81.4	2.5
わからない	192	1.0	12.5	84.4	2.1

問 29－１ あなたは、お住まいの地域で、けがや事故、犯罪、災害にあうかもしれない不安を感じていますか。（あてはまる番号それぞれ１つずつ）

すべての項目で「不安を感じる」と「やや不安を感じる」を合わせた『不安を感じる』の割合が高くなっています。また、３項目で比べると、《(イ) 犯罪》で「あまり不安を感じない」と「不安を感じない」を合わせた『不安を感じない』の割合が高くなっています。



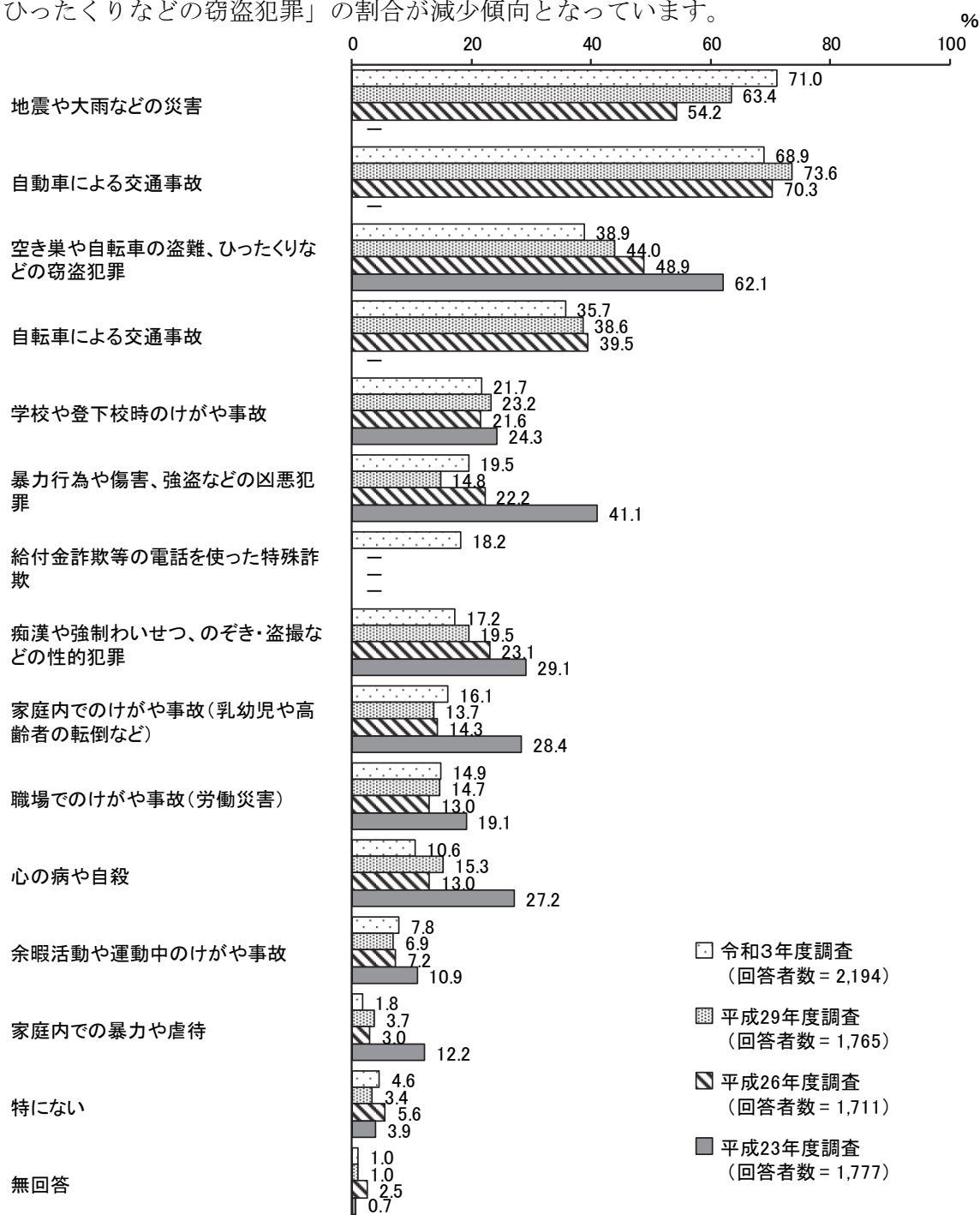
☐ 不安を感じる
 ☐ やや不安を感じる
 ☐ あまり不安を感じない
 ☐ 不安を感じない
 ☐ 無回答

問 30－1 あなたやあなたのご家族がふだん生活する中で、不安に感じることは何ですか。（あてはまる番号いくつでも）

「地震や大雨などの災害」の割合が71.0%と最も高く、次いで「自動車による交通事故」の割合が68.9%、「空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪」の割合が38.9%となっています。

【経年比較】

「地震や大雨などの災害」の割合が増加傾向となっています。一方、「空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪」の割合が減少傾向となっています。



※平成 29 年度調査、平成 26 年度調査では「給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺」の選択肢はありませんでした。

※平成 23 年度調査では「地震や大雨などの災害」「自動車による交通事故」「自転車による交通事故」「給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺」の選択肢はありませんでした。

【性別】

「男性」に比べ、「女性」で「自動車による交通事故」「痴漢や強制わいせつ、のぞき・盗撮などの性的犯罪」「家庭内でのけがや事故（乳幼児や高齢者の転倒など）」「地震や大雨などの災害」の割合が高くなっています。一方、「女性」に比べ、「男性」で「暴力行為や傷害、強盗などの凶悪犯罪」の割合が高くなっています。

単位：％

区 分	回答者数（件）	自転車による交通事故	自動車による交通事故	暴力行為や傷害、強盗などの凶悪犯罪	空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪	給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺	痴漢や強制わいせつ、のぞき・盗撮などの性的犯罪	職場でのけがや事故（労働災害）	事故	余暇活動や運動中のけがや事故	学校や登下校時のけがや事故	家庭内でのけがや事故（乳幼児や高齢者の転倒など）	家庭内での暴力や虐待	心の病や自殺	地震や大雨などの災害	特にない	無回答
全体	2,194	35.7	68.9	19.5	38.9	18.2	17.2	14.9	7.8	21.7	16.1	1.8	10.6	71.0	4.6	1.0	
男性	939	34.9	66.5	22.2	38.1	19.0	13.2	15.8	7.6	20.8	13.3	2.1	12.6	67.7	5.4	1.0	
女性	1,239	36.4	71.0	17.6	39.7	17.7	20.4	14.2	8.1	22.4	18.4	1.5	9.1	73.9	4.0	0.7	

【年齢別】

他に比べ、「40 歳代」で「自転車による交通事故」「痴漢や強制わいせつ、のぞき・盗撮などの性的犯罪」「学校や登下校時のけがや事故」「地震や大雨などの災害」の割合が、「30 歳代」で「自動車による交通事故」「余暇活動や運動中のけがや事故」の割合が高くなっています。また、「18～29 歳」で「職場でのけがや事故（労働災害）」「地震や大雨などの災害」の割合が、「50 歳代」で「自動車による交通事故」「空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪」「地震や大雨などの災害」の割合が、「65～69 歳」で「給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺」の割合が、「75 歳以上」で「家庭内でのけがや事故（乳幼児や高齢者の転倒など）」の割合が高くなっています。

単位：％

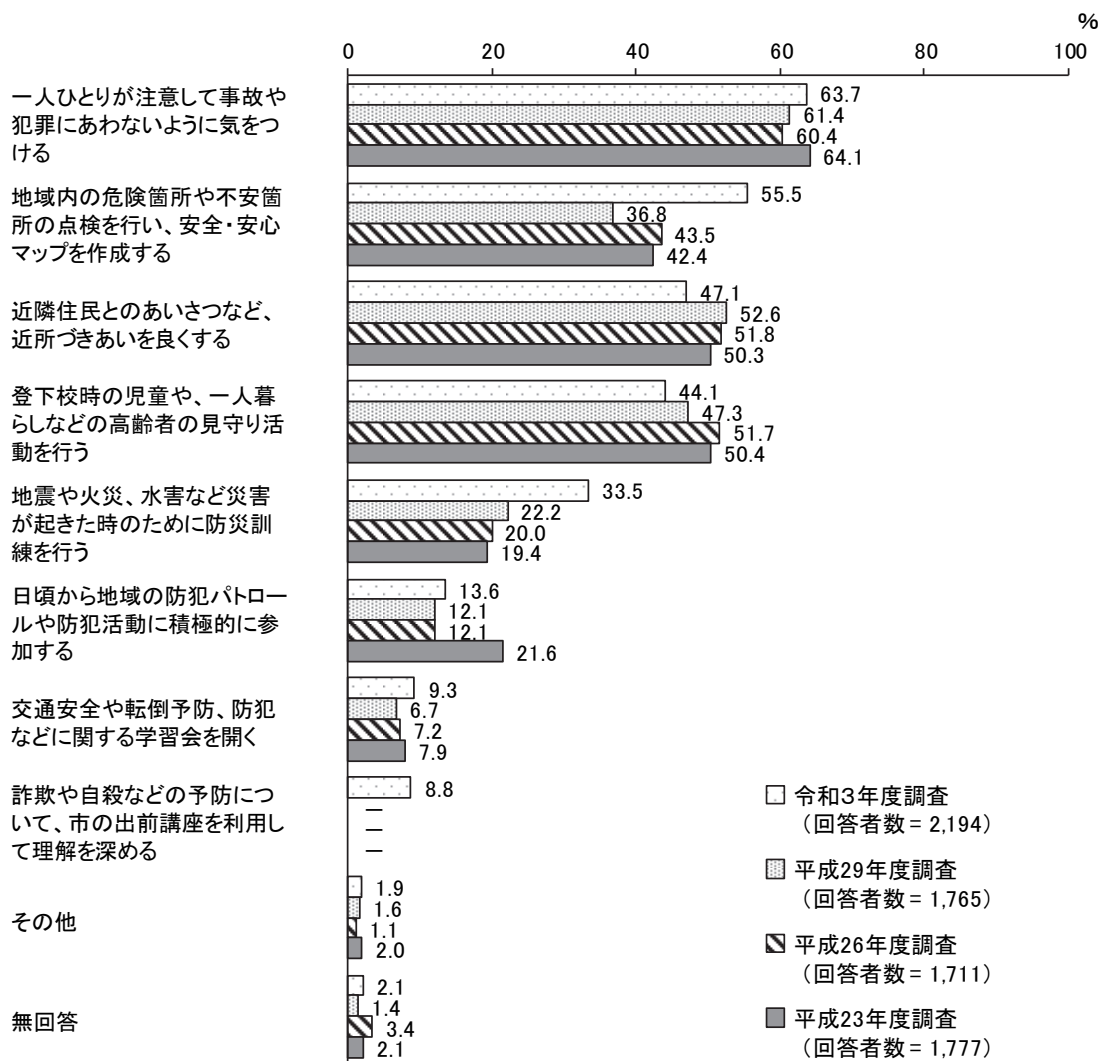
区分	回答者数（件）	自転車による交通事故	自動車による交通事故	暴力行為や傷害、強盗などの凶悪犯罪	空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪	給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺	痴漢や強制わいせつ、のぞき・盗撮などの性的犯罪	職場でのけがや事故（労働災害）	余暇活動や運動中のけがや事故	学校や登下校時のけがや事故	幼児や高齢者の転倒など	家庭内でのけがや事故（乳幼児や高齢者の転倒など）	家庭内での暴力や虐待	心の病や自殺	地震や大雨などの災害	特にない	無回答
全体	2,194	35.7	68.9	19.5	38.9	18.2	17.2	14.9	7.8	21.7	16.1	1.8	10.6	71.0	4.6	1.0	
18～29 歳	171	30.4	67.3	22.2	32.7	11.7	23.4	20.5	8.2	18.1	9.4	2.9	13.5	76.6	6.4	0.6	
30 歳代	253	40.7	71.9	23.7	37.9	14.2	23.3	19.8	12.3	38.3	15.0	2.8	14.2	71.9	3.6	0.4	
40 歳代	368	51.4	67.9	22.8	41.3	13.6	25.5	15.2	8.7	42.7	11.7	2.7	14.7	76.6	3.0	0.8	
50 歳代	382	35.1	72.8	21.2	44.2	19.4	23.0	17.8	6.8	19.1	10.5	1.3	14.9	76.2	3.1	0.5	
60～64 歳	235	28.9	68.5	18.7	40.9	17.4	17.0	16.2	6.4	11.9	17.4	1.7	8.9	70.2	4.3	0.9	
65～69 歳	284	28.2	68.3	16.5	40.5	24.3	7.7	13.0	5.6	11.3	19.0	1.8	6.3	66.9	4.9	0.4	
70～74 歳	293	30.7	64.5	13.3	38.9	20.8	7.2	9.6	9.2	12.3	21.8	1.0	4.8	64.5	6.8	2.0	
75 歳以上	197	33.5	69.5	17.3	26.9	23.9	7.1	6.6	5.1	10.2	28.9	—	4.1	62.9	6.6	2.0	

問 30－2 あなたは、けがや事故、犯罪などを防いだり、災害への備えとして、個人や地域で特にどのような取り組みや対策を行うことが必要だと思いますか。
(あてはまる番号いくつでも)

「一人ひとりが注意して事故や犯罪にあわないように気をつける」の割合が 63.7%と最も高く、次いで「地域内の危険箇所や不安箇所の点検を行い、安全・安心マップを作成する」の割合が 55.5%、「近隣住民とのあいさつなど、近所づきあいを良くする」の割合が 47.1%となっています。

【経年比較】

「地域内の危険箇所や不安箇所の点検を行い、安全・安心マップを作製する」「地震や火災、水害などの災害が起きた時のために防災訓練を行う」の割合が増加しています。



※平成 29 年度以前の調査には「詐欺や自殺などの予防について、市の出前講座を利用して理解を深める」の選択肢はありませんでした。

【性別】

「男性」に比べ、「女性」で「登下校時の児童や、一人暮らしなどの高齢者の見守り活動を行う」「近隣住民とのあいさつなど、近所づきあいを良くする」「一人ひとりが注意して事故や犯罪にあわないように気をつける」の割合が高くなっています。一方、「女性」に比べ、「男性」で「日頃から地域の防犯パトロールや防犯活動に積極的に参加する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	地域内の危険箇所や不安箇所の点検を行い、安全・安心マップを作成する	登下校時の児童や、一人暮らしなどの高齢者の見守り活動を行う	近隣住民とのあいさつなど、近所づきあいを良くする	日頃から地域の防犯パトロールや防犯活動に積極的に参加する	交通安全や転倒予防、防犯などに関する学習会を開く	詐欺や自殺などの予防について、市の出前講座を利用して理解を深める	地震や火災、水害など災害が起きた時のために防災訓練を行う	一人ひとりが注意して事故や犯罪にあわないように気をつける	その他	無回答
全体	2,194	55.5	44.1	47.1	13.6	9.3	8.8	33.5	63.7	1.9	2.1
男性	939	55.6	40.1	43.9	16.1	10.8	9.5	34.8	57.3	2.4	2.2
女性	1,239	55.3	47.0	49.6	11.8	8.4	8.3	32.7	68.6	1.5	1.9

【高齢者の安全対策】①【転倒予防】転倒予防に関する普及・啓発								
課題	客観的課題	・高齢者がけがを負う原因の半数以上は「転倒」であり、骨折につながりやすい ・高齢者の転倒の約半数は、「自宅」で発生している ・骨折は、介護・介助が必要となった原因の上位である						
	主観的課題	高齢者の多くは「転倒」に不安を感じているが、対策を講じている人は少ない						
目標		転倒予防に取り組む人の増加						
内容		自宅内での転倒危険箇所や転倒事例、転倒予防体操の仕方をまとめたパンフレットを配布するほか、様々な機会を捉え注意の喚起と転倒事故に対する対策の必要性を啓発する。						
対象者		高齢者						
実施者		NPO 法人、介護サービス提供事業者、生きがい健康づくり財団、久留米市社会福祉協議会、市など						
対策委員会の関わり		・パンフレットの内容検討・企画・見直し ・パンフレットを使用し周知・啓発						
2021 年度の実績 及び 改善した点等		・保健所や民生委員・児童委員、介護サービス提供事業所など高齢者と接する機会が多い関係機関を通じて、『転倒予防の啓発パンフレット』の配付を行った。(1,140 部を配布) 【拡充点】 ・久留米市民生委員児童委員定例会において、活動時に『コロナ禍におけるフレイル予防のリーフレット』の活用を依頼。 24 地区に 2,443 部のリーフレット提供を行った。 【高齢者の転倒予防パンフレット】 【フレイル予防リーフレット】 						
2022 年度の方針 及び 課題等		<u>転倒予防の重要性に関する効果的な周知啓発</u> ・これまでの公的機関や、民生委員・児童委員などに加え、介護サービス提供事業所等に、転倒予防・フレイル予防のリーフレット配布を依頼 ・これまでの紙媒体を活用した周知以外にも、SNS などを活用することで、高齢者を支援する若い世代も含めて広く転倒予防の大切さ、支援の必要性を伝える						
指標		内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	①介護保険住宅改修講習会参加者数		人	100	17	10	92	7
	②転倒予防パンフレットの配付数		枚	3,847	2,000	4,144	1,705	1,140
【短期】認識・知識		【新】転倒予防対策の必要性を認識した人の割合 [参加者アンケート調査]	%	91.4	90.9	—	89.5	89.6
【中期】態度・行動		転倒予防対策を行う人の割合 [高齢者実態調査(3 年毎)]	%	—	—	60	—	—
【長期】状況		「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3 年毎)]	%	—	—	23.0	—	—

(※) 「転倒予防対策の必要性を認識した人の割合については、2019は新型コロナウイルスの影響によりアンケート調査実施の前に教室が中止となったため、数値なし。

(※) 新型コロナウイルスの影響により、実施なし。(SC 実態調査は R3 に延期)

【高齢者の安全対策】 ②【転倒予防】転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防								
課題	客観的課題	・高齢者がけがを負う原因の大半は「転倒」であり、「骨折」につながりやすい ・高齢者の骨折は、介護・介助が必要となった原因の上位である						
	主観的課題	高齢者の多くは「転倒」に不安を感じているが、対策を講じている人は少ない						
目標		地域における転倒予防のための取り組みの活性化						
内容		(1) 年齢と共に低下しがちな体力を維持することを目的に、介護予防プログラムを実践する。 (2) 地域で行われている様々な健康増進の取り組みに対し、活動助成や周知、広報などを行い、継続的な活動につながるよう支援する。						
対象者		(1) 高齢者 (2) 市民一般						
実施者		(1) NPO 法人、介護サービス提供事業者、生きがい健康づくり財団、職能団体、市など (2) 地域で健康づくりに取り組む団体、市など						
対策委員会の関わり		・介護予防プログラムの実践						
2021 年度の実績 及び 改善した点等		(1) ・にこにこステップ運動教室（教室型・講師派遣型）（186 回 1,700 人参加） ・認知症予防講座（11 回、126 人参加） ・口の元気アップ出張講座（24 回、217 人参加） (2) ・ウォーキング：30 校区でウォーキング大会を実施し、2,853 人参加。（16 校区で新型コロナウイルスの影響等により事業中止または未実施） ・ラジオ体操：新型コロナウイルスの影響により市民ラジオ体操の集いを中止した。  【拡充点】 ・にこにこステップの団体参加者等が、より主体的に住民主体の通いの場の運営を行えるように応援講座を実施し、支援を推進した。（25 回、230 人参加） 【介護予防教室の様子】						
2022 年度の方針 及び 課題等		<u>介護予防事業の実施及び地域住民主体の活動の支援</u> ・介護予防に効果のあるにこにこステップ運動などの教室は今後も継続的に開催 ・高齢者が早期に自分の筋力や歩行機能の低下に気づけるような仕組みづくりを行う ・住民主体で介護予防活動を継続できるよう、介護予防の自主グループづくりや、その運営を支援する講座を開催 ・屋外で行う「スロージョギング教室」を実施し、コロナ禍でのフレイル予防を図る <u>地域で取り組まれる健康づくり活動の支援</u> ・地域で取り組む健康づくり活動としてウォーキングやラジオ体操の実施支援に取り組みながら、コロナ禍においても様々な活動が停滞せず、継続できるような事業展開を図り、健康づくり活動の実践者の持続的な増加を図る。						
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021	
活動指標	① 健康ウォーキングの回数、参加者数	回 人	— 8,868	— 7,432	— 5,427	— (※) — (※)	— 2,853	
	② 「市民ラジオ体操の集い」の回数、参加者数	回 人	2 1,300	2 2,400	2 2,300	— (※) — (※)	— (※) — (※)	
	② にこにこステップ&スロージョギング教室の回数 延べ参加者数	回 人	483 8,349	721 13,093	794 13,366	176 2,122	207 1,892	
【短期】認識・知識	70 歳以上で健康づくりのために運動をしている方の割合 （1 日 30 分以上、週 2 日以上）[市民意識調査]	%	56.7	53.4	53.8	— (※)	52.7	
【中期】態度・行動	高齢者のけがの原因のうち「転倒」の割合 [SC 実態調査(3 年毎)]	%	51.9	—	—	— (※)	49.5	
【長期】状況	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3 年毎)]	%	—	—	23.0	—	—	

【高齢者の安全対策】③【高齢者虐待防止】虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催							
課題	客観的課題	・被虐待者の約 60%に認知症の症状がある ・虐待事例の多くが同居親族によるものである ・地域の関係機関からの通報は上がっているが、近隣住民など身近な人からの通報は少ない					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・認識を持っていない人もいる					
目標		虐待や認知症について正しく理解する人の増加					
内容		(1) 虐待に関する認識を高め、認知症に対する理解を深めるための学習機会を提供する。 (2) 地域における認知症の人のよき理解者である認知症サポーターを養成し、地域で認知症の人とその家族を見守り、支援を行う。 (3) 自宅で高齢者を介護する基本的介護技術を習得し、介護に対する理解を深める。認知症の人を介護している家族に講義と実技指導を行い、家族介護に対する支援を行い、介護負担を軽減する。					
対象者		(1) 市民 (2) 小学生以上の市民 (3) 市民					
実施者		(1) 地元関係者、関係団体、市 など (2) キャラバン・メイト、市 など (3) 介護福祉サービス事業者協議会、市					
対策委員会の関わり		・キャラバン・メイトとして認知症サポーターを養成 ・家族介護教室において、基本的介護技術等の講座の実施					
2021 年度の実績 及び 改善した点等		(1) ・認知症講演会 : 1 回、29 名参加 ・市民向け虐待防止啓発講座 : 開催実績なし（新型コロナウイルスの拡大防止のため） (2) ・認知症サポーター養成数 : 1,671 人（累計 35,327 人） (3) ・認知症の人への声掛け訓練 : 開催実績なし（新型コロナウイルスの拡大防止のため） (4) ・家族介護教室 : 116 名参加 ※全 8 講座					
2022 年度の方針 及び 課題等		<u>認知症の理解を深めるための機会の提供</u> ・これまで開催したことが無い団体に向けた認知症サポーター養成講座の実施 ・団体等に向けた認知症講演会の実施 ・ウイズコロナの中でも安心して理解を深めてもらうように WEB や動画を活用する <u>虐待防止の意識醸成に向けた取り組みの実施</u> ・家族介護教室、認知症サポーター養成講座、および出前講座等の機会を活用し、市民に対し啓発を行う <u>介護者の負担軽減を図るための支援</u> ・介護者の負担軽減のため、家族介護教室の開催や介護用品支給事業などの支援に取り組む					
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	虐待防止や認知症に関する講演会・学習会の回数、参加者数	回	10	8	6	0 (※)	1
		人	362	597	333	0 (※)	29
【短期】認識・知識	虐待を正しく理解する市民の割合 [高齢者実態調査(3 年毎)]	%	—	—	—	身体的 73.2% 経済的 58.7% 性的 63.8% 介護放棄 65.0% 心理的 64.1%	—
【中期】態度・行動	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	57.5	59.8	61.0	47.7	集計中
【長期】状況	虐待発生率 [長寿支援課統計]	%	0.083	0.077	0.072	0.062	0.046

(※) 新型コロナウイルスの影響により、開催実績 なし。

【高齢者の安全対策】④【高齢者虐待防止】介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修							
課題	客観的課題	高齢者虐待に関する相談・通報件数の約 6 割が、ケアマネジャーや介護サービス提供事業所等からのものである					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・意識を持っていない人もいる					
目標		介護サービス提供事業所における虐待に対する意識向上					
内容		介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修を基本研修と事例対応研修の構成で実施。虐待防止のための意識の啓発と虐待しない職場作りを推進する。					
対象者		介護サービス提供事業所職員					
実施者		市					
対策委員会の関わり		虐待防止研修の実施					
2021 年度の実績 及び 改善した点等		・介護サービス提供事業所職員に虐待防止研修をオンラインで実施し、効果的に啓発を行った。 - R3 研修申込事業所数：213 事業所（参加者数：413 人） 【変更点】 ・「養護者による高齢者虐待防止」を研修内容に加え、介護サービス提供事業所職員が、家族等の擁護者からの高齢者虐待に早期に気づくポイントや発見時の対応などを周知した。					
2022 年度の方針 及び 課題等		<u>ウィズコロナに対応し、職位や経験年数に応じた効果的な研修の実施</u> ・ウィズコロナの中でも安心して理解を深めてもらえるようにWEB、動画を活用する ・介護サービス提供事業所職員等を対象とした研修を職位や経験年数に応じた内容に変更する					
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	介護サービス提供事業者向け虐待防止研修の回数、参加者数	回	7	2	6	1（※）	1（※）
		人	340	408	271	574	413
【短期】認識・知識	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）〔長寿支援課統計〕	%	57.5	59.8	61.0	47.7	集計中
【中期】態度・行動	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）〔長寿支援課統計〕	%	57.5	59.8	61.0	47.7	集計中
【長期】状況	虐待発生率 〔長寿支援課統計〕	%	0.083	0.077	0.072	0.062	0.046

（※）オンラインでの実施。

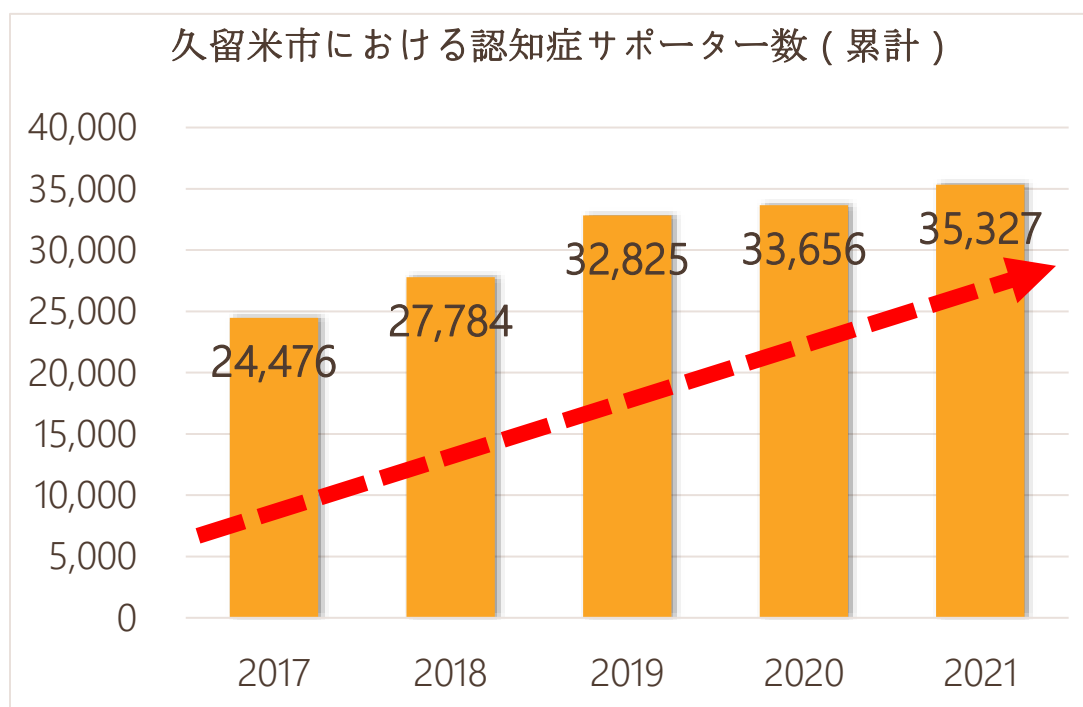
【高齢者の安全対策】⑤【高齢者虐待防止】地域で高齢者を見守るネットワークの構築							
課題	客観的課題	高齢者虐待に関する相談・通報件数の約5割が、ケアマネジャーや介護サービス提供事業所等からのものである					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・意識を持っていない人もいる					
目標		関係機関等の連携及び地域全体での高齢者を見守りによる、虐待の未然防止・早期発見・早期対応					
内容		高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続する為に、地域の多様な社会資源を活用して、高齢者を支援する体制の整備と推進を図り、虐待の早期発見を行うとともに、早期対応に努める。					
対象者		高齢者					
実施者		地域の活動団体、医療機関、介護サービス提供事業所、久留米市社会福祉協議会、地域包括支援センター、市					
対策委員会の関わり		・虐待通報や相談への対応 ・地域ケア会議への出席 など					
2021 年度の 実績 及び 改善した点等		・全ての虐待に関する通報件数のうち、地域や事業者・医療機関からの通報件数の割合 R2 年度 47.7%（全通報件数 88 件のうち 42 件）※通報経路に重複あり。 ※R3 年度は現在集計中 ・高齢者が抱える個別課題について、多様な専門職や地域の支援者が多様な視点から検討を行い、課題解決を支援するための地域ケア会議を実施。 ・地域住民や個人宅を訪問する事業者、市などの関係機関が協力して、「くるめ見守りネットワーク」に取り組み、地域全体で見守り活動を行い、日常生活における異変を早期に発見し、支援につなげた。					
2022 年度の 方針 及び 課題等		関係機関・地域と連携した虐待の早期発見・早期対応 ・虐待案件の早期発見のため、医療、介護、保健、福祉等の関係機関や団体及びまちづくり振興会や老人クラブ、校区社協（ふれあいの会）など地域住民との協力・連携に取り組む ・関係機関・地域の支援者に対し、虐待に対する正しい知識の周知・啓発に取り組む。 地域で高齢者を見守る取り組みの推進 ・「くるめ見守りネットワーク」による取り組みを継続。					
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	57.5	59.8	61.0	47.7	集計中
【短期】認識・知識	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	57.5	59.8	61.0	47.7	集計中
【中期】態度・行動	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	57.5	59.8	61.0	47.7	集計中
【長期】状況	虐待発生率 [長寿支援課統計]	%	0.083	0.077	0.072	0.062	0.046

2021 年度取り組み実績

高齢者の安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
転倒予防	4-①	転倒予防に関する普及・啓発
	4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防
高齢者の虐待防止	4-③	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催
	4-④	介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修
	4-⑤	地域で高齢者を見守るネットワークの構築

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

介護サービス提供事業所向けの啓発

・介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修について、集合形式で行っていたものを、オンライン形式で実施した。期間中はいつでも動画視聴できるようにすることで、効果的な啓発を行った。



【虐待防止研修動画】

ウ. 2021 年度の取り組みで最も成功した事例

コロナ禍におけるフレイル予防啓発

- ・久留米市民生委員児童委員定例会において、民生委員児童委員活動時に『コロナ禍におけるフレイル予防のリーフレット』の活用を依頼し、24 地区に 2,443 冊のリーフレット提供を行い、フレイル予防の啓発を行った。



【フレイル予防リーフレット】

エ. 2021 年度で最も積極的に取り組んだ活動

介護予防のための地域の高齢者団体への活動支援

- ・コロナ禍において、高齢者団体が集まっての介護予防活動実施が困難な中、感染対策の周知指導、専門家の派遣を行い、地域での介護予防活動の継続を促した。併せて、感染拡大防止の知識、対策の周知・啓発を老人クラブやいきいきサロン等を実施した。

	R2 年度	R3 年度
にこにこステップ運動 講師派遣事業	回数 : 143回 参加者数 延1,348人	回数 : 172回 参加者数 延1,545人
口の元気アップ出張講座	回数 : 12回 参加者数 延165人	回数 : 15回 参加者数 延217人

継続的な介護予防の取り組み

- ・にこにこステップの団体参加者等が、より主体的に住民主体の通いの場の運営を行えるように応援講座を実施し、支援を推進した。(25 回、230 人参加)

オ. 分野横断的に行っていること

「くるめ見守りネットワーク」の実施

- ・高齢者をはじめとする全ての市民が、地域において孤立することなく安心して暮らすことができるよう、「くるめ見守りネットワーク」を実施し、行政と地域や事業者が連携・協力して地域全体で見守り活動に取り組んでいる。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

(転倒予防)

- ・屋内での転倒予防や溺死・溺水 予防の重要性に関するより効果的な啓発促進が必要。
- ・介護予防事業の実施と、自主グループ化の支援が必要。

(高齢者の虐待防止)

- ・虐待や認知症の理解を深めるための機会の提供することが必要。
- ・介護者の負担軽減を図るための支援を継続していくことが必要。

令和 4 年度取り組み方針

高齢者の安全対策委員会

具体的施策	令和 4 年度取り組み方針
① 転倒予防に関する普及・啓発	<u>転倒予防の重要性に関する効果的な周知啓発</u> ・これまでの公的機関や、民生委員・児童委員などに加え、介護サービス提供事業所等に、転倒予防・フレイル予防のリーフレット配布を依頼 ・これまでの紙媒体を活用した周知以外にも、SNS などを活用することで、高齢者を支援する若い世代も含めて広く転倒予防の大切さ、支援の必要性を伝える
② 転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防	<u>介護予防事業の実施及び地域住民主体の活動の支援</u> ・介護予防に効果のあるにこにこステップ運動などの教室は今後も継続的に開催 ・高齢者が早期に自分の筋力や歩行機能の低下に気づけるような仕組みづくりを行う ・住民主体で介護予防活動を継続できるよう、介護予防の自主グループづくりや、その運営を支援する講座を開催 ・屋外で行う「スロージョギング教室」を実施し、コロナ禍でのフレイル予防を図る <u>地域で取り組まれる健康づくり活動の支援</u> ・ウォーキングやラジオ体操など、地域で取り組む健康づくり活動の支援に努めるとともに自発的な活動参加者の増加を図る
③ 虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	<u>認知症の理解を深めるための機会の提供</u> ・これまで開催したことが無い団体に向けた認知症サポーター養成講座の実施 ・団体等に向けた認知症講演会の実施 ・ウィズコロナの中でも安心して理解を深めてもらうように WEB や動画を活用する <u>虐待防止の意識醸成に向けた取り組みの実施</u> ・家族介護教室、認知症サポーター養成講座、および出前講座等の機会を活用し、市民に対し啓発を行う <u>介護者の負担軽減を図るための支援</u> ・介護者の負担軽減のため、家族介護教室の開催や介護用品支給事業などの支援に取り組む
④ 介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修	<u>ウィズコロナに対応し、職位や経験年数に応じた効果的な研修の実施</u> ・ウィズコロナの中でも安心して理解を深めてもらえるように WEB、動画を活用する ・介護サービス提供事業所職員等を対象とした研修を職位や経験年数に応じた内容に変更する
⑤ 地域で高齢者を見守るネットワークの構築	<u>関係機関・地域と連携した虐待の早期発見・早期対応</u> ・虐待案件の早期発見のため、医療、介護、保健、福祉等の関係機関や団体及びまちづくり振興会や老人クラブ、校区社協（ふれあいの会）など地域住民との協力・連携に取り組む ・関係機関・地域の支援者に対し、虐待に対する正しい知識の周知・啓発に取り組む。 <u>地域で高齢者を見守る取り組みの推進</u> ・「くるめ見守りネットワーク」による取り組みを継続。